

ットは、標準溶液から得たスポットより濃くない。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 3 時間)。

強熱残分 0.2 % 以下 (0.5 g, 白金つぼ)。

定量法 本品及び吉草酸ベタメタゾン標準品を乾燥し、その約 0.01 g ずつを精密に量り、それぞれをメタノールに溶かし、正確に 100 mL とする。この液 10 mL ずつを正確に量り、それぞれに内標準溶液 10 mL を正確に加え、試料溶液及び標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、内標準物質のピーク面積に対する吉草酸ベタメタゾンのピーク面積の比  $Q_T$  及び  $Q_S$  を求める。

$$\begin{aligned} & \text{吉草酸ベタメタゾン (C}_{27}\text{H}_{37}\text{FO}_6) \text{ の量 (mg)} \\ & = \text{吉草酸ベタメタゾン標準品の量 (mg)} \times \frac{Q_T}{Q_S} \end{aligned}$$

内標準溶液 安息香酸イソアミルのメタノール溶液 (1  $\rightarrow$  1000)

操作条件

検出器：紫外吸光光度計 (測定波長：254 nm)

カラム：内径約 4 mm, 長さ 20 ~ 25 cm のステンレス管に 7  $\mu$ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：25 °C 付近の一定温度

移動相：メタノール/水混液 (7 : 3)

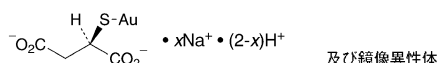
流量：吉草酸ベタメタゾンの保持時間が約 10 分になるように調整する。

カラムの選定：標準溶液 10  $\mu$ L につき、上記の条件で操作するとき、吉草酸ベタメタゾン、内標準物質の順に溶出し、その分離度が 5 以上のものを用いる。

貯法 容器 気密容器。

## 金チオリンゴ酸ナトリウム

Sodium Aurothiomalate



$\text{C}_4\text{H}_5\text{AuNa}_2\text{O}_4\text{S}$  : 390.08 と  $\text{C}_4\text{H}_4\text{AuNaO}_4\text{S}$  : 368.09 との混合物  
Monogold monosodium monohydrogen (RS)-1-sulfidobutane-1, 2-dioate

Monogold disodium (RS)-1-sulfidobutane-1, 2-dioate

[12244-57-4, 金チオリンゴ酸ナトリウム]

本品を乾燥したものは定量するとき、金 (Au : 196.97) 49.0 ~ 52.5 % を含む。

性状 本品は白色～淡黄色の粉末又は粒で、においはない。本品は水に極めて溶けやすく、エタノール (95) に溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくい。

本品は吸湿性である。

本品は光によって変化する。

確認試験

(1) 本品の水溶液 (1  $\rightarrow$  10) 2 mL に硝酸カルシウム四水和物溶液 (1  $\rightarrow$  10) 1 mL を加えるとき、白色の沈殿を生じ、これに希硝酸を加えるとき、沈殿は溶ける。更に酢酸

アンモニウム試液を加えるとき、白色の沈殿を生じる。

(2) 本品の水溶液 (1  $\rightarrow$  10) 2 mL に硝酸銀試液 3 mL を加えるとき、黄色の沈殿を生じ、過量のアンモニア試液を加えるとき、沈殿は溶ける。

(3) 本品の水溶液 (1  $\rightarrow$  10) 2 mL を磁製のつぼにとり、アンモニア試液 1 mL 及び過酸化水素 (30) 1 mL を加え、蒸発乾固した後、強熱する。残留物に水 20 mL を加えてろ過するとき、ろ紙上の残留物は黄色又は暗黄色の粉末又は粒で、ろ液はナトリウム塩及び硫酸塩の定性反応を呈する。

pH 本品 1.0 g を水 10 mL に溶かした液の pH は 5.8 ~ 6.5 である。

純度試験

(1) 溶状 本品 1.0 g を水 10 mL に溶かすとき、液は淡黄色澄明である。

(2) 重金属 本品 1.0 g をとり、第 2 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 3.0 mL を加える (30 ppm 以下)。

(3) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 3 法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

乾燥減量 8.0 % 以下 (1 g, 減圧, 酸化リン (V), 80 °C, 4 時間)。

定量法 本品を乾燥し、その約 0.025 g を精密に量り、王水 2 mL を加え、加熱して溶かし、冷後、水を加えて正確に 100 mL とする。この液 2 mL を正確に量り、水を加えて正確に 25 mL とし試料溶液とする。別に原子吸光光度用金標準液 5 mL, 10 mL 及び 15 mL をそれぞれ正確に量り、水を加えて正確に 25 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、次の条件で原子吸光光度法により試験を行い、標準溶液の吸光度から得た検量線を用いて試料溶液の金含量を求める。

使用ガス：

可燃性ガス アセチレン

支燃性ガス 空気

ランプ：金中空陰極ランプ

波長：242.8 nm

貯法

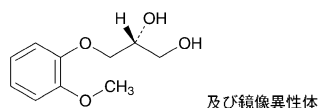
保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

## グアイフェネシン

Guaiifenesin

グアヤコールグリセリンエーテル



$\text{C}_{10}\text{H}_{14}\text{O}_4$  : 198.22

(RS)-3-(2-Methoxyphenoxy)propane-1, 2-diol [93-14-1]

本品を乾燥したものは定量するとき、グアイフェネシン ( $\text{C}_{10}\text{H}_{14}\text{O}_4$ ) 98.0 ~ 102.0 % を含む。